



開町70周年記念行事

おけとワイン「炎の里」、しろ花豆焼酎発売



建てられた歓迎塔

開町70周年を祝う記念式典は、昭和60年9月26日にスポーツセンターで、町内外の来賓350人を集めて行われました。実行委員長には、町議会議長の中井正が就任し、総務・事業・行事の3部門に分けて、記念テーマを「おけと70 いま想像と飛躍のとき」と制定し、記念植樹祭を皮切りに予定事業費3,800万円を組んで行われました。

記念事業としては、置戸町史上巻（戦前編）の発行（A5版974ページ）、記念映画の製作（16ミリカラーフィルム約35分）、記念町政要覧を発行（A4版96ページ）し全戸配布、市街地1カ所と町界3カ所の歓迎塔の設置、南ヶ丘公園の整備、250人でエゾムラサキツツジ2,000本を植樹した記念植樹祭の実施、置戸町旗の製作を行いました。

記念行事としては、真打ち競演、漫才、落語など6組が出演したラジオ公開番組、置戸の歴史を写真で表現した町民文化展、作家藤本義一の文化講演会、ジャーナリストおのたけじを講師に迎えた村おこしゼミナールが開催され、協賛事業として、天皇杯軟式野球北北海道大会の開催、62チームが参加し置戸、勝山間を走った町民駅伝競走大会が行われました。

そして、町内に自生する山ぶどうを採り、小樽

北海道ワイン株式会社に醸造を依頼し、おけと湖に赤い夕日が沈む写真をレットルにして作られた「炎の里おけと」は山ぶどうの酸味がほどよく出ており、全道一の生産量を誇った白花豆に付加価値を高めるため、新潟県長岡市の美峰酒類新潟支社に依頼し、札幌在住の芥川賞作家高橋揆一郎の筆による簡潔で優雅な水墨画調のデザインのレットルが施されたしろ花豆焼酎「おけと」は、白花豆独特のまろやかな芳香がやさしく鼻をつき、同時発売され、贈り物として人気を呼んでおりました。



（参照『置戸町史下巻』※文中人名敬称略）

資源ごみ集団回収 奨励金について



町では、住民参加によるごみの資源化・減量化の推進を目的として、資源ごみの回収活動を行っている団体に対し、回収量に応じた奨励金を交付しています。

■対象団体

自治会、子ども会、PTA、老人クラブ等の営利を目的としない団体

■対象品目

スチール缶、ダンボール、雑誌

■奨励金の額

1回当たり2,000円に、回収した対象品目の資源ごみ1kgにつき3円を加えた額
※同一団体への奨励金の交付は1年度につき3回までとさせていただきます

■交付申請

「リサイクル品回収申出書」または不用品回収業者による重量証明を添えて、申請してください。また、奨励金は金融機関への口座振込となりますので、通帳の口座番号と口座名義が確認できる書類を添付してください。

■詳細・申し込み

町民生活課住民生活係（☎52-3315）